



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.24

編集 環境パートナーシップちば
 代表 横山 清美
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団 環境学習推進室内
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

第5回エコサロン

「千葉の廃棄物事情 残土・産廃が房総の風土を壊す！」

残土・産廃問題ネットワーク・ちば代表 藤原 寿和



第4回エコサロンの講師は東京都環境局の職員であり、残土・産廃ネットワーク千葉の事務局長でもある藤原寿和さん。今から20年ほど前に浦安沖に人工の島を作ってごみ処分場を作るとい

計画に東京湾にゴミを埋めるということが納得できず反対運動を始めたが、じゃ、ゴミはどうすればよいのかと言うことで、廃棄物問題にも関わることになったとのこと。以来、廃棄物、残土、化学物質問題などに、専門知識を活かして全国の住民運動の強力な助っ人になっている。

千葉県の廃棄物問題

千葉県は、急激な都市化や工業化が進み多量の廃棄物が発生した上、首都圏に近く埋立てしやすい地形が多いところから県外からも多くの廃棄物、残土が持込まれ、廃棄物問題が深刻化している。

廃棄物は、焼却、埋立て、中間処理の段階での問題と、不法投棄の問題がある。

焼却については、ダイオキシン発生による健康被害。更にガス化熔融など、施設の高度化、大型化での対応は資源循環型の社会構築に逆行する。

埋立てでは、地下水への影響が心配される。実際、有害物がないはずの安定型処分場でも黒い水や悪臭のあるところも多い。また、埋立て処分場の火災も多く、有毒ガス、ダイオキシンの発生も当然あると思われる。

中間処理としては、リサイクルセンターでの破碎の際に水銀など有害物が発生する。神奈川県の大規模な破碎場で大気中の水銀を測っているが、かなり高い。破碎はかなりの高温になるので、ダイオキシンの発生も考えられる。また、爆発事故はかなり多い。

市原や銚子の不法投棄のゴミには東京都の指定ゴミ

袋に入ったものが多い。これは東京都の事業系一般廃棄物の有料化に伴い、不法投棄されたものと思われる。また、医療廃棄物が混入されていたり、中にドラム缶が埋められているとの噂もある。

警察にも環境犯罪対策室が設置され、取り締りを強化し市原、銚子を重点的に監視しているが、長南、長柄、茂原などに移動している。罰則もまだまだ甘く、不当に得ている利益を全て没収する位でないとう効果が上がらない。

自社処分の問題

建築物の解体事業者が建築廃材を自社処分する際は許可を必要としないところから、自社処分として実際には他社の廃材を引受けていたり、火災をおこすなどの問題が多発している。

堂本知事は就任当初から自社処分の不法投棄防止のための条例づくりを目指し、ほぼ、固まってきている。しかし、条例ができて職員体制ができなければ、実効は上がらない。市町村で監視員制度などもできつつあるが、権限のある職員が必要である。

残土の問題

東京オリンピック時の首都大改造で大量に出た残土が千葉に運ばれて以来、千葉県自体も開発で発生した大量の残土で埋立てなどを行ってきた。産業廃棄物規制が強まるのに伴い、まずは不法投棄が増え、続いて残土の中に紛れ込ませるようになった。そこで1997年千葉県は全国にさきがけ、残土条例をつくり、許可制にしたが、周辺住民の同意は必要でなく、汚泥や焼却灰などの混入では残土との区別が付かず、申請すれば許可される状況になり、却って千葉県への残土搬入が増える結果となった。

有害物が入っていない残土は埋立てに必要との主張もあるが、環境生態系の保全から、表土をはぎとり、別の場所を埋立てるといふ土地や自然そのものの改変の是非も考えていかなければならない。

法律や条例の問題

廃棄物に関しては廃棄物に関する処理法や条例、指

導要綱の他に農地法、森林法、自然保護法など多岐に亘り、12課の担当部局があり、横に連絡組織を設けてはいるが、さらに、残土全般にわたる条例で規制していくことが望まれる。

また、廃棄物に関する届出や検査は保健所の管轄になるが、保健所は書類審査で殆ど現場に行くこともなく、住民の健康被害や安全性確保については後ろ向きに対応が多い。

今後の課題

廃棄物行政から資源循環行政へ

1993年、「ふるさと千葉のごみ問題を考える懇談会」は当時の沼田知事に、将来の目標として、廃棄物ゼロ社会の実現、資源循環型の社会構築、地球や環境にやさしい暮らしや事業活動の普及等を挙げ、施策展開、県の組織体制強化についての具体的な提言を行っている。これらは現在を先取しており、それに従って施策がすすめられれば、千葉県は資源循環行政として先進県になれたはずである。

現在の施策として、ゴミ発電などはゴミ削減にブレーキを掛けるなどから賛否両論あり、また、産業廃棄物処理に公共の関与や、逆に公共の廃棄物処理にPFI(Private Finance Initiative 民間資金等活用事業)の推進が言われているが、いずれも責任の所在が不明確になり、事故処理には税金が使われること、有害物の混入などは生産者しかわからない情報があることから、生産者責任で工場に戻すべきだと思う。

資源循環をめざして、リサイクル法はできたが、ゴミ削減4Rのうち最下位で一方方向のリサイクルでは、

破綻するだろう。製品はリサイクル工場ではなく、工場に戻して有害物を取除いてもう一度利用しなければ、リサイクルとは言えない。幸い、千葉県は京葉コンビナートでプラスチック工場などもあり、製品を工場にもどすことを積極的に進めるべきだと思う。

跡地汚染問題

新しい課題として、工場や処分場の跡地で汚染が見つかることが増えてきている。古い工場や処分場は安全対策もされておらず、土壌汚染にとどまらず、地下水汚染を招くことから、早急な調査と対策が望まれる。

(文責：広報部佐藤)

次回(第6回)エコサロンのお知らせ

日時 4月19日(金)午後6時30分から

場所 船橋女性センター第一会議室

講師 小坂雄二さん(シーズ)

定員 40名 資料代 500円

「よいパートナーシップ、悪いパートナーシップ」
パートナーシップとは、行政と市民が単にいっしょに行動すればよいということではありません。行政と市民は基本的に立場が異なります。その立場を乗り越えて、よりよい社会を創設するためにはどうすればよいのか。その場合の障害は何なのか。それを考えます。

申込み先：事業部 平松南

Tel : 090-2658-5093 Fax : 047-375-2987

昨年の10月から検討を進めてきました「ちば環境再生計画」が2月15日に策定され、いよいよ計画がスタートしました。

この計画の特徴の一つは、従来の自然を保護するとい

う視点からは忘れられがちだった悪化してしまった自然に着目していることです。構想の段階から広く県民の皆様の意見を伺ってきましたが、寄せられた意見でもっとも多かったのが自然の保全という視点が欠けているというものでした。このため、自然の保全と再生も対象とした総合的な計画としました。

また、自然の保全と再生を進める具体的な取り組みの実施や支援をする方法として「ちば環境再生基金」を創設いたしました。基金の事業として、戦略プロジェクト、公募による助成、他の民間助成制度とタイアップによる助成を行うことを計画していま

す。ただ、この計画では、大まかな方向を示しているだけです。具体的な助成制度は、計画の段階

よりNPOの皆さんとの意見交換を密にして決めることで、NPOの活動を効果的に支援してい

きます。これを機に今までの活動を見直したり新たな活動に取り組んでみたりするのも良いのではないかと思います。

基金の目標金額は、既存の環境基金と合わせて5年間で300億円を目標としており、積極的な募金活動も進めていきます。これは、ただお金を集めるというのではなく、基金の活動や環境問題を理解していただきながら行っていく、県民一人ひとりがふるさと千葉の環境再生への思いを託せるようにしていきます。募金活動への皆さんの協力をいただくと幸いです。

「ちば環境再生計画」がスタート

千葉県環境生活部環境生活課

先進地見学

神奈川県民活動サポートセンターとソフトエネルギープロジェクト

市川市環境市民会議 畑 中 一 成

1月27日日曜日、ちょっとお天気が心配な中、環境パートナーシップちばの27人は横浜駅西口すぐにある神奈川県民活動サポートセンターとNPO法人ソフトエネルギープロジェクトの見学、視察に行ってきました。案内役はサポートセンターの情報コーディネーターであり、ソフトエネルギープロジェクト(以下SEPという)の理事長の佐藤一子さん。お世話になりました。

【県民活動サポートセンター】



このセンターは、岡崎知事の肝いりでJR横浜駅前の好立地に6年前にオープンしました。会議室やメールボックス、ロッカーの貸与はもちろんのこと、

- ・ 自由に使えるミーティングスペースの充実
- ・ 午前10時から午後10時まで年中無休
- ・ コピー・印刷機・裁断機の無料開放
- ・ 事務局がファックス受信代行
- ・ インターネットホームページの開設が可能
- ・ アドバイザーや情報コーディネーターの設置

等々、という充実ぶりです。センターを開設するのにあたり、多くのボランティア団体の意見を取り入れたということで、自由に使える空間であるだけでなく、事務所機能も提供しています。午後10時までなら、会社帰りのサラリーマンも活動に参加できます。

センターの利用者は年間35万人にのぼり、利用者の活動分野は福祉が19%、子育て・青少年教育が11%、海外協力・外国人支援が10%、そして環境が9.3%となっています。無料印刷機はなんと年間450万枚もの稼働です。

更に、こうした事例から、県内には多くの市でサポートセンターが開設されてきたとのことで、うらやましい限りです。

【NPO法人ソフトエネルギープロジェクト】

午後からは、佐藤さんが理事長を務めるSEPについて伺いました。佐藤さんは生活クラブ生協で活動をなさって20年、リオの環境会議出席の機会があり、以来、地球温暖化防止に取り組んでおられます。省エネといった後ろ向きの節約生活だけでなく、もっと積極的な温暖化防止活動をと、太陽光や風力などの新エネルギーによる市民共同発電所となったそうです。

1号機は金井幼稚園に設置。発電量は3kwで300万円。幼稚園の屋根をSEPが借り、太陽光発電のパネルをSEPから幼稚園が借りるという契約で、発電された電気は幼稚園の照明などに使い、余った電気は東京電力に売電し、代金をSEPに寄付してもらい、共同発電所の拡大資金にあてるというものです。

2号機は川和保育園で事業規模は5.1kw640万円で、設置業者を含め20回もの打ち合わせをしたそうです。SEPでは単に共同発電所を設置するだけでなく、掲示板にも工夫を凝らしお天気のいい日にはたくさん電気ができることを幼児たちに伝えています。こうして環境教育にも結びつけているのです。

3号機は私立富士見丘高校で事業規模は1,600万円。太陽光10KW 風力3機。体育館の60%の照明をまかない、生徒会活動で新エネルギーや地球温暖化防止を取り上げているそうです。子どもたちが自ら学び、自分たちの未来について考えるきっかけとなりました。こうした説明を受けたあと、SEPの自然エネルギー・省エネルギー普及啓発・環境教育推進センターにおじゃまし、太陽光発電、風力発電機や太陽温水器の実物を見学しました。

今回の訪問で学んだことを、これからの千葉の活動に大いに活かしていきたいと思い、佐藤さんに紹介された省エネナビを申し込みました。



「地球温暖化防止を考える パート」

～ 温暖化防止アクションコンテスト～

最優秀賞

3月2日、千葉市美術館にて環パ主催「温暖化防止アクションコンテスト」が開催されました。当日は、予定人数の50人を大幅に超え、席がなくなるほどの大盛況ぶりでした。最優秀賞に輝いたのは、第 期市川市環境市民会議家計簿チーム有志が演じる寸劇「平成の利家とまつ」に決定いたしました。実は、ストップ温暖化千葉推進会議の内山明治さんの「気体廃棄物について」と同票で、優勝賞品の省エネナビが1台だったために、最終的に審査委員長の気候ネットワークの平田仁子さんに決定が委ねられたという一幕もありました。

コンテストの後、「ちば環境再生計画」(P2参照)と温暖化防止活動についてのお話を鈴木一男氏(千葉県環境生活部環境影響評価審査室長)よりいただきました。また、同部環境生活課政策室の日浦博昭氏より、“地球温暖化防止活動の推進については、温暖化防止推進委員同士の連携を希望している”などのお話がありました。参加者に推進委員が多くいらしたことも、これからの活動の進展を期待させるものでした。(広田)



第 期市川市環境市民会議家計簿チーム有志
「平成の利家とまつ」

平成の前田家のエコライフを楽しく紹介してくれました。環境家計簿で紹介されている省エネをまつが厳しく指導！前田家は、平成の世も安泰です！？大受け、大爆笑でした。

温暖化防止を支える「ごみ・リサイクルのアンケート調査」(782人の啓発実施) / 野村 幸平さん



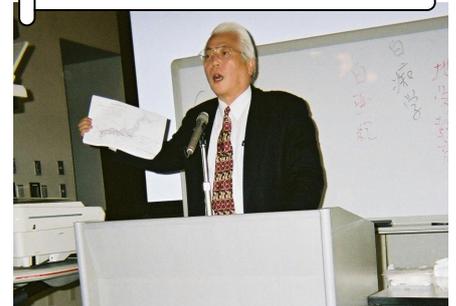
千葉エコネットの調査発表は、それぞれ統計をとり分析を行う素晴らしいものでした。何故か千葉県だけではなく屋久島や関東他県からの回答があり、幅広い活動を示唆しているようで良かったです。



市川市環境市民会議(第 期による、パートナーシップ型地球温暖化防止活動の教訓(寸劇風) / 松本定子さん(他)

市民の目線・パートナーシップを第一と考え、市民と行政の信頼関係の構築を訴えられました。会議で作られた「市民行動計画」は環境大臣賞を受賞しました。

千葉の化石が語る地球の温暖化と冷却化 / 田中 茂さん



化石を使っでの説明が分かりやすく良かったです。昆虫が知らせしてくれる地球温暖化の警鐘、25 を超えるとトウモロコシなど野菜の収穫量がガクンと減り、病害虫が増える話は危機感を感じました。鎌ヶ谷の小さい女の子も興味深く聞き入っていました。

70CCのエンジン、600Wの小型発電機を使って「気体廃棄物」は便利な生活と表裏一体のゴミであると警鐘されました。エネルギーにおいては循環型社会はありえない、意識を高めることが大切、という内山さんの言葉が印象的でした。20%のガソリンが47kgの炭酸ガスになるそうです。禁煙よりも車のアイドリングストップの方が確かに大切だと感じました。車の買い換えを考えるすべての人に見てもらいたい発表だと思えます。



気体廃棄物について / 内山 明治さん

わが家でも地球温暖化防止 わが家の環境家計簿 2002 の紹介 / 機田 哲平さん



家庭で実施した環境家計簿の成果を発表!!やはり温暖化防止には、家庭や一人一人の努力が必要不可欠です!!



人力発電で体験した省エネ啓発 / 内野 英哲さん



パワー君で実験中の原 弘志さん

スト温の名物実験道具である「パワー君」を使っでの省エネの啓発です。まず、電気製品が使用するワット数を知ること、1日でのどの位の電力を消費するのか、それでは何を減らすことができるのか・・・!?

パワー君で発電実験に協力してくださいました原さんは、13年度のエコマインド養成講座を修了された方です。

家計簿とマイバッグを市民に効果よく訴えるために、FMやケーブルTV、回覧版や新聞など各メディアを利用した活動を紹介されました。2/24に配ったというマイバッグのパンフは英語版もありました。

メディアで伝える「エコライフ20」 / 渡辺 克巳さん(他)



去る2月12日千葉市「ぱ・る・るプラザ千葉」において、千葉県の主催により、「ちばNPOフォーラム」が開催された。主たる目的は「NPOと行政のパートナーシップづくりをめざして」であった。しおりによると、21世紀の社会づくりには、県民、NPO、企業、行政がパートナーシップを構築することが求められている。NPO活動は保健、福祉、環境保全、国際交流、まちづくりなど多くの分野で課題解決に取組み、近年社会でのその活動は大きな役割を担ってきている。各NPO間の交流を推進し、活動に対する認識・重要性を深め[NPO立県ちば]をめざす基礎づくりとする趣旨であった。

1. 基調講演

「自治体とNPOとの協働のあり方」と題してNPO法人「日本NPOセンター」常務理事の山岡義典氏(法政大学教授) 市民活動を支えるもの一人のミッションから組織のミッションへ、ボランティアとNPOの関係、市民活動の社会的役割、自治体と民間組織との協働の意味 新しい関わり

についての講演があった。

2. パネルディスカッション

コーディネーターは堂本暎子千葉県知事がつとめ、パネリストには国生美南子さん(NPO法人たすけあいの会ふきのとう理事代表)、牧野昌子さん(NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ代表理事)、横山清美さん(環境パートナーシップちば代表)、福嶋浩彦氏(我孫子市長)、山岡

義典氏(基調講演者)により行われた。最初に、各パネリストからそれぞれの活動分野の状況が説明され、ディスカッションが行われたが、コーディネーターの堂本知事がパネリストだけでなく会場からの発言を求めて廻り、会場あげでのディスカッションとなり、有意義なフォーラムとなった。なお、パネリストとしての横山代表からは、環境NPOの分野での行政とのパートナーシップについて「環境シンポジウム千葉会議」と「浦安三番瀬クリーンアップ大作戦」の事例紹介、NPO活動懇談会として、千葉県におけるNPOと行政の連携のあり方についての発表があった。(小野朗記)

ちばNPOフォーラム

<祝！第2回全国学校ビオトープコンクール入賞>

文部科学大臣賞（最優秀賞）：稲毛第二小学校 奨励賞（全国のベスト54校）：幸町第二小学校

2校の受賞に思うこと

青空教室、グループ2000（環境に学ぶ）代表 横田 耕明

この受賞は、全てが手作り自然工法（伝統工法）にこだわり、できるだけ多くの人に関われるようにと、機械を使わず、子どもから大人まで一緒に汗を流す地道な取り組みが評価されたと考えています。誰の「手」一つがなくても、このビオトープは完成していなかったのです。関わった人全ての人々が受賞した賞だと思います。

コンクールの評価は、ビオトープの質 学校（児童と教師）、PTA、地域、環境NGOの連携 児童の主体性 学習の活用 持続性と発展性 の5点のバランスが良く、優れていたとのこと。に関しては、環境NGOがこのようにうまく連携している例は、全国的にも稀だと評価されました。に関しては、稲浜小、幸二小を含めた稲毛海岸地区のビオトープネットワークの中で位置づけられている点や、この春から真砂三小、平成15年度から幸三小、二中ビオトープも計画され、さらなる広がりが期待される点が評価されました。現在、扇田小ビオトープも進行中で、来春完成予定です。次に、今までのビオトープ作りの経緯をお話します。

(1) 稲浜小ビオトープ

平成7年に自宅の庭で始めたビオトープがきっかけで、稲浜小の校長先生（当時：行木先生）から依頼され、ビオトープ作りがスタートしました。のちに、「ちば環境文化賞大賞」を受賞しました。（当時：池田校長先生）

(2) 幸二小ビオトープ

平成9年からスタートしていた幸二小ビオトープ（当時：伊藤節子校長先生）を平成10年4月から私がお手伝いすることになりました。思い半ばで伊藤校長先生は稲毛二小に転任され、その後を永峰暢人校長先生が引き継がれ、平成12年3月に完成しました。

(3) 稲毛二小ビオトープ

平成11年5月、伊藤節子校長先生からの依頼により、教職員研修会でビオトープの講演をし、約1年間の啓蒙、研修、調査期間を経て、いよいよ平成12年4月からビオトープ作りがスタートしました。「できる人が、できる時に、できる事を」という伊藤先生の方針に従い、決して強制しないで始めたビオトープでしたが、次第に理解され、毎回少しずつ参加者が増えてきました。作業日ごとに「ビオトープとは何か？」「なぜビオトープを作るのか？」等、共通理解を得るための努力もありました。学校には、予算がなく Love Our Bay 基金、イオングループ

環境財団、セブンイレブンみどりの基金（申請中）等に、我々が助成金の申請をして資金集めをしました。子どもたちのためにと考えれば、何も苦になりませんでした。

平成11年に船橋ビオト



ープ研究会から講演を依頼された時、受講していた上林良一さんと鈴木恵子さんから手伝わせて欲しいとの要望があり、ビオトープ作りに加わることになりました。やがて、「あおぞら教室」（ビオトープ製作活用）が結成されました。稲毛二小ビオトープにおける、この二人及び関係者の功績は高く評価されます。その後、千葉市エコリーダー養成講座の修了者で構成され、自然生態系の保全と復元をテーマに活動してきた「グループ2000」も、会としてビオトープ作りに加わることとなりました。さらに、環境研究センター、中央博物館、市森林組合等、様々な専門機関の協力も得られるようになり、稲毛二小ビオトープ作りを通して「調査」「計画」「実行」「活用」にわたるビオトープ作りのネットワークが構築されたのです。

(4) 今後

これからも我々は、「学校主導のもと、下から支える」という基本姿勢を忘れず、行政と協力しながら「未来の子どもたちのために」という一つの思いでビオトープ作りに関わって行きたいと思います。今後共、ご支援・ご指導の程、宜しくお願い致します。自分の利益や名声の為ではなく「子どもたちのために」という純粋な気持ちで、一緒にビオトープ作りに関わって頂ける方の応募をお待ちしております。



エコマインド講座日記 遠足編！

最終7回目にあたる「ライフスタイルを考える」には、残念ながら欠席してしまいました。ここだけでいいから、次回参加させてほしいです。(ダメ?)

9月12日、前日の台風とうって変わって晴れ渡った青空の中、なんとエコマインドで遠足が行われました。参加希望者は、休日・平日両コースあわせて20名位。とても和気藹々とした良い雰囲気の中で楽しむことができました。

朝9時に千葉より出発、船橋のクリーンセンターに到着したのは10時過ぎでした。ここでは、焼却灰から作ったレンガや、焼却の際に発電した電気を東電に売るなどの船橋市の取組を皆真剣に聞くと同時に厳しい質問を投げかけておりました。参加者の多くである船橋市以外の人にとっては、なかなか見学する機会のない場所です。この7回、エコマインド講座を受けて環境に対する知識をより高めた20人は、時間が足りない位にまんべんなく拳手・発言し、とてつもない熱意を感じました。

私が焼却灰を見て気になったことは、明らかに産廃が紛れ込み、それが決して少なくない数字だということ。焼け焦げ、無残な姿の台車や自転車、扇風機を見て映画「千と千尋の神隠し」の“お腐れ様”を思い出しました。これらの最終処分場に神様が住んでいたら、間違いなく“お腐れ様”になることでしょう。

昼食後、サッポロビール千葉工場を見学しました。一通りの見学を終え、ビールの試飲をしながら環境白書やビオトープ、ケナフ畑など環境に関する取り組み

の数々を説明された私達ですが、アルコールが入ると更にヒートアップ! 質問の嵐は続きます。手厳しい質問にも嫌な顔一つせずに対応してくださいまして、さらにビールまでごちそう様でした。ビールで更に朗らかになった皆は、ビオトープ&ケナフ畑の見学へ。あいにくの台風で大荒れでしたが、ケナフについての意見はいろいろあるにしろ、ここまでこの埋立地を緑化するのには素晴らしいことだと思いました。

初日に休日コースに出ていた私にとって、久しぶりにお会いする方々との交流がとても嬉しかったです。これがアイスブレイキングの成果なのね、としみじみ心はホカホカです。移動のバスの中で今後情報があれば教えて欲しいなどと声を掛けてくださる方の言葉に幸せをかみしめつつ1日を終了しました。多くの方々から、この先の実践コースに進むかどうかの話題をなげかけられました。同じプログラムを行うのでも、それはメンバーによってうける印象が全く変わってくるのではないかと思います。皆で何かをするということは協力しあうこと。環境を勉強しにきている人たちは、モラルのある方が多いなと感じます。結果、遠足に参加していたほとんどの人たちが実践コースに申し込みをしたとのことでした。実践コースでもいつも盛り上がり、回を重ねるごとに結束力が強まった素晴らしいメンバーの皆さんの活躍を、今も色々なところで見聞きます。エコマインドに参加して本当に良かったです。実践コースは申し込みをしたものの、落第してしまった私ですが、同窓会、誘ってくださいね!(広田記)

「エコマインド養成講座が変わります！」

「環境パートナーシップちば」の会員のみなさまにはエコマインド修了生も多く、連載 エコマインド講座日記を、自分が受講した時は・・・等と思い出して、お楽しみいただいていたことと思います。

その千葉県主催のエコマインド養成講座が14年度変身計画を企てていると伺いました。詳細は、「だより」次号にて発表させていただきますが、今回は企画されている千葉県環境生活課から取材させていただいた改正点をお知らせいたします。

県民コースは、体験と実践がひとつになった一貫性のある講座が受けられるようにすること
必修科目と選択科目からなる単位制を導入し、学ぶ形を受講生が選択できるようにすること
より多くの市民活動団体に協力をいただき、インターン制度を必修化すること
市町村職員コースとエコマインド修了生を対象にしたフォローアップコースを新設すること
各コースの受講者が交流する機会を設け、地域で活躍できる指導者の育成をめざすこと

このような変身にチャレンジしますが、環境学習指導者に向けた導入から始まり、気づき・指導技能の習得、そして実践・行動に結びつくような養成講座をめざしていることは変わりません。

講座修了しても地元とつながっていかず、なかなか腕も磨けない地域の環境保全にも活用できないとお嘆きの方もいらしたのではないのでしょうか? 市町村職員コースができれば、エコマインド充分な各市町村の環境担当者と一緒に環境学習を展開するのも遠い日ではないでしょう。

「だより」次号での変身したエコマインド養成講座の発表をお楽しみに!

(横山記)

総会開催のご案内

環境パートナーシップちば 代表 横山 清美

春の花爛漫の季節となりました。皆様にはますますご活躍のことと思います。21世紀は、環境の世紀といわれていますが、いよいよ今夏、持続可能な社会に向けてヨハネスブルグサミットが開催されます。「環境パートナーシップちば」の活動も重要になってきております。ますますの活躍を期し、下記の通り平成14年度総会を執り行いますのでご出席くださいますようお願い申し上げます。

=記=

日時 5月11日(土曜日) 13:30~16:30
 場所 千葉市美術館 11F 講堂
 内容 ・平成13年度事業&会計報告・平成14年度事業計画&予算案
 ・役員選出
 ・会員活動事例紹介(若干例)とディスカッション

募集! 活動事例発表を募集します。

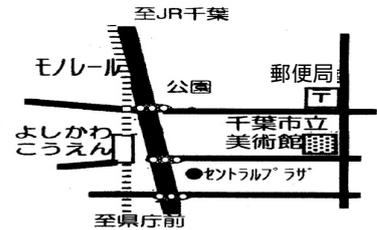
地域での行政や企業・専門家とのパートナーシップについて苦労話や体験談をお聞かせください。

有志の方、総務部小野宛お電話またはFAXまたはメールください。

時間の制約上、すべての方のご希望に応じることができない場合にはご容赦ください。

Tel&Fax 043 263 9059 E-Mail ono-akira@mub.biglobe.ne.jp

出席の可否は4月15日までにご連絡ください。



お知らせコーナ

「第1回アースデイ in 千葉」

日時: 5月26日(日) 午前10時~午後5時
 場所: 稲毛海浜公園内特設会場(予定)
 内容: ビーチクリーンナップ/フリマ/藍染め
 助産婦マッサージ/オーガニックカフェ
 ミニコンサート/ナチュラルな出店・屋台
 子どもコーナー/市民グループ展示
 その他実に盛り沢山!
 フリマ・その他出展者熱烈募集中! 絶対面白い!
 Tel: 043-248-5099(Fax043-248-5069)
 E-mail: info@earth-market-place.co.jp
 HP: http://www.earth-market-place.co.jp
 20年でも30年でもかけていいイベントにしていくつもりです。気楽な形でご参加いただけたら嬉しいです。環境問題が楽しいということを体感して貰い、関心が広まればと思っています。また、環境に関わるネットワークを形にしていきたいとも考えております。
 (アースデイ in 千葉実行委員会 東 光弘)

第53回千葉県みどりの祭典

郷土のみどりを次代に引き継ぎ、みどり豊かな環境とするため、広く県民参加のもと祭典を開催します。なお、平成15年春季に本県で開催される、第54回全国植樹祭のプレイベントと位置付け、植樹祭関連展示を併せて実施します。

日時: 4月28日(日) 午前9時30分~
 会場: かずさDNA研究所芝生広場(木更津市矢那)
 内容: 式典、記念植樹、里山観察会、木工教室等
 関連イベント

ふるさとの森林づくりツアー 4月14日(日)
 問合せ先: 県庁みどり推進課 TEL 043-223-3688

「沈黙の春」出版40年記念のつどい
 <レイチェル・カーソンを語り継ぐ>
 日時: 4月14日(日) 13時~15時
 場所: みらいCANホール(日本科学未来館7階)
 講演とパネルディスカッション、懇親会
 鈴木善次氏、上遠恵子氏ほか
 問い合わせ: 03-3811-5511

原稿募集

「環パちば」だよりに地域の情報や話題、談話室向けの随想、などをお寄せください。

(古紙 100% 使用)

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先: 千葉県環境財団環境学習推進室気付
 TEL: 043-246-2180 FAX: 043-246-6969
 会費納入先: 環境パートナーシップちば
 郵便振替口座 00160-9-401872
 ホームページ:
 http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境推進学習室気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて入会します

氏名				入会年月	
住所	〒				
TEL			FAX		
年会費	個人 1,000円 団体 2,000円 賛助会員 5,000円				

